

No.2 多発しているトラック - 交通事故（道路）の死亡災害事例（2022年）

2022年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者 規模
12	8 ～ 10	ごみ収集車を運転して移動中、市道の道路脇（下り勾配3度）に停車して運転席から降りたところ、ごみ収集車がゆっくり前進し、約10m進んだ先の田んぼに転落して、運転者が下敷きになった。	150102	221	17	1～ 9
12	18 ～ 20	被災者は地盤改良作業を終え、午後、社用車の軽トラックに乗り事務所に向かった。被災者の運転する軽トラックが中央線を越え対向車の右側面に接触した後、そのままさらに対向車線に進入し、後続してきた別の対向車と正面衝突した。事故後病院に搬送されたが約2時間後に死亡したもの。	030199	221	17	30 ～ 49
12	20 ～ 22	高速道路にて、トラックの助手席に乗車している際に、路肩に停車中のトラックに衝突し全身が圧迫され、出血性ショックにより死亡した。	040301	221	17	50 ～ 99
12	10 ～ 12	トンネルの東200m付近の見通しの良い片側2車線の直線道路上で、交通集中の影響で発生した渋滞の最後尾で停車中の大型トラックに被災者運転の2tトラック（平荷台）が追突した。そのはずみで大型トラックは前に停車中の高速バスに追突した。被災者は全身を強く打って救急搬送され、同日中に骨盤骨折による出血性ショックで死亡。	040301	221	17	10 ～ 29
12	8 ～ 10	被災者は工業団地の事業場にて4tトラックに金属製品を積み、県外にある事業場へ運搬していた。被災者が、国道のほぼ直線の片側一車線道路を走行していたところ、対向車線を走行してきた軽四乗	040301	221	17	10 ～ 29

		用車が、走行車線をはみ出してきて衝突したものの。				
12	2 ～ 4	被災者2名は線路上設備の調整、試験作業を終えて、事務所に戻るため県道を社用車で走行中、当該車に対向車線に進入し、さらに路肩を越えて道路脇の立木に激突した。これにより、運転していた被災者が死亡し、助手席にいた被災者が胸部打撲等により負傷した。	030301	221	17	10 ～ 29
11	12 ～ 14	被災者は、本社での出張業務を終え、社有車（普通乗用車）を運転し国道を走行中、トンネル内で対向車線を走行して来た11tトラックがセンターラインをはみ出し、正面衝突したものの。	080109	221	17	1～ 9
11	6 ～ 8	事業は新聞店。被災者は、当日電話番をしていたが、朝刊不配のクレームが入ったため、原動機付自転車を運転し配達に向かっていた。国道の信号のある十字路交差点内において後方から大型トレーラーにひかれ、当日中に搬送先病院で死亡が確認された。	080205	221	17	30 ～ 49
11	18 ～ 20	A社のトラックが追越車線を走行中、後方を走行していたB社のトラックに追突され、A社のトラックが横転し、助手席に同乗していた労働者が脳挫傷で死亡した。なお、双方のトラックの運転手も負傷した。	010101	221	17	10 ～ 29
11	8 ～ 10	災害発生当時、事故発生付近は片側3車線の直線道路であり、北向きに渋滞が発生していた。被災者が運転するトラックが、渋滞する列の最後尾に突っ込んだものの。	080109	221	17	1～ 9
11	10 ～ 12	2tトラックで荷物を搬送中の被災者は、高速道路インターチェンジ出口車線において、前方のトレーラー後部に衝突し、両足負傷状態で病院に搬送され、治療を受けるも数日後に死亡したものの。	080109	221	17	30 ～ 49
11	12 ～ 14	被災者は、高速道路のICから東に2km地点の高速道路車線を7トンのタンクローリーで走行中、前方で1台のトラックが故障のため停止していたところ、トラック2台が相次いで追突し、被災者の運転するタンクローリーがその後ろに追突し死亡したものの。	150102	221	17	50 ～ 99
	18	顧客の車両整備後に帰社するため軽トラックで高速道路を北上中、				1～

11	～ 20	見通しの良い直線で前方を走行していた大型トラックに追突した。	080202	221	17	9
11	2 ～ 4	高速道路のインターチェンジ付近において、路面工事に伴う車線規制のため渋滞していた。先頭のトレーラーが停車し、乗用車と中型トラックが減速していたところ、被災者が運転するトラックが追突し、被災者は死亡した。	040301	221	17	100 ～ 299
11	2 ～ 4	事業場から荷物を運搬中、高速道路（下り）で工事渋滞しているところ、2台後方の大型車両が後方車両に追突し後方車両が当方車両の下に入り込み炎上、焼死した。	040301	221	17	10 ～ 29
11	14 ～ 16	交差点の横断歩道を自転車で走行中、同交差点を左折しようとしていた大型トレーラーと接触し、巻き込まれ死亡した。	090102	221	17	30 ～ 49
10	10 ～ 12	積荷の配達を終え、1トントラックを運転して国道を走行していたところ、曲線半径120メートル程度の左カーブを曲がり切れず反対車線にはみ出し、対向する大型貨物自動車と正面衝突して、全身強打により死亡した。	030199	221	17	1～ 9
10	22 ～ 24	車両感知器柱建替え工事を行うため、国道（高架上）で片側2車線の上下線ともに中央分離帯側の車線を工事看板やカラーコーンを使用して車線規制準備を行っていたところ、各務原方面から大垣市方面へ西進する4トントラックが車線規制最前に激突し、規制内で作業を行っていた警備員及び工事看板等をはね飛ばし、工事看板等の激突により現場の作業員1名が死亡し、4名が負傷した。	170201	221	17	100 ～ 299
10	20 ～ 22	自動車道において、普通乗用車1台と大型貨物自動車3台が絡む交通事故が発生し、大型貨物自動車の運転者が死亡したもの。	040301	221	17	10 ～ 29
9	2 ～ 4	被災者の前方を走行していた10トントラックが工事用ダンプトラックに追突した後、道路上で停止していたところ、被災者が運転するトラックが追突したものである。	040301	221	17	50 ～ 99

9	14 ～ 16	被災者は現場に向かうため3トントラックで片側一車線の県道を走 行していたところ、被災者の運転するトラックが対向車線にはみ出 て、対向車の10トン散水車と正面衝突して死亡したもの。	030106	221	17	1 ～ 9
9	6 ～ 8	準中型トラックに2名が同乗し、建設現場に向かうため、高速道路 を走行していたところ、左側走行車線で横転した。運転手は首の骨 を折るなどの重傷、同乗していた労働者が死亡した。	030309	221	17	1 ～ 9
9	10 ～ 12	被災者は発生場所の県道において、工事現場の交通誘導員として警 備を行っていたところ、誘導しようとしたダンプトラックにはねら れ死亡したもの。	170201	221	17	30 ～ 49
9	12 ～ 14	トラック荷台に溜まった水を、出発（出庫）前に被災労働者となる トラック運転手が排水するため、荷台を傾斜させた（ダンプアッ プ）。その後、荷台を傾斜させたまま運行を開始し、いわゆる高架 下（橋桁下部）で荷台が接触して、それを端緒に横転した。被災労 働者は、その際の外傷により窒息した。	040301	221	17	10 ～ 29
9	2 ～ 4	事業場から外部へ、空コンテナを24tトレーラーに乗せ移動中、 高速道路で、台風の影響で雨が強い中、前を走るトラックを追い越 した際に接触し、コントロールを失って壁に激突した。被災者は災 害発生時は意識があったものの、病院に搬送された後、容態が悪化 し死亡。	040301	221	17	50 ～ 99
8	2 ～ 4	道路補修工事において、当日の作業が概ね終了し、被災者ら作業員 は片付け作業の指示を受けていた。しかし、被災者は単独で中央線 仮ライン引き作業を行っていた。当該ライン引き作業を行っていた ところ、走行してきたトラックに衝突された。その後、意識不明の 状態で病院に搬送されたものの、同日、外傷性ショックにより死亡 した。	030106	221	17	30 ～ 49
8	8 ～	走行中のバルク車（飼料運搬車）が中央線を越え、対向してきた路 線バスと衝突。バルク車を運転していた被災者が死亡、バス運転手	040301	221	17	10 ～

	10	(休業災害)が軽傷を負った。				29
8	0 ～ 2	高速道路走行中トラックがクラッチの故障により走行不能になり走行車線にはみ出して停車し、車両の前方で待機していたところ、後方より走行してきたトラックが停車車両に追突し、そのはずみで停車車両が前方へ進み、被災者をはねた。	040301	221	17	50 ～ 99
8	6 ～ 8	高速道路上、片側2車線の左車線をトラック(最大積載量9.1t)で走行中、左遮音壁に接触、反動で追い越し車線を走行中の普通乗用車に衝突し、制御不能となり横転したもの。運転者は、多発外傷により死亡。	040301	221	17	30 ～ 49
8	8 ～ 10	出張先の工事現場に向かうため、事業主(運転者)と被災者(助手席に同乗)が高速道路のジャンクション付近を走行していたところ、前方を走行していたトラックが右側の壁に激突し、横転した。被災者が同乗していた車両は、横転したトラックに巻き込まれ被災したもの。	030209	221	17	1～ 9
8	14 ～ 16	西に向かって走行していたトラックとバイクで北に向かって走行していた被災者が信号機のない交差点で出会い頭に衝突したもの。	090103	221	17	10 ～ 29
8	2 ～ 4	被災者が、高速道路を10トントラックで走行中、左カーブで、路肩付近に駐車していた別の10トントラックに追突し、死亡したものの。	040301	221	17	50 ～ 99
7	10 ～ 12	被災者がトラックで県道を走行していたところ、対向車線を走行していた大型トラックがセンターラインを超え、被災者が運転するトラックと正面衝突したもの。被災者は災害発生日から19日後に死亡した。	040301	221	17	10 ～ 29
7	8 ～ 10	ごみ収集車(中古車の車両輸送が目的)を運転中、中央分離帯に接触し、横転した。	040302	221	17	10 ～ 29

7	12 ～ 14	県道を普通自動車にて進行中、交差点において、右側（林道）から進行してきたトラックと衝突した。現場に信号機はなく、トラック側に一時停止の標識があった。	030209	221	17	～ 49
7	22 ～ 24	被災当日19時台に事業場を車で出発。高速道路（下り坂）を走行中に追い越し車線で単独事故を起こして停車中の乗用車がきっかけとなり、後続の乗用車1台、大型トラック5台が次々に衝突した。被災者の大型トラックは乗用車か別の大型トラックに衝突後、更に別の大型トラックに衝突したものの。	040301	221	17	～ 49
7	2 ～ 4	原動機付自転車で新聞を配達中、雨を避けるために陸橋の下の路肩に停止していたところ、前方不注意の軽四輪貨物自動車に追突されたもの。	080205	221	17	～ 29
7	4 ～ 6	高速道路を走行中、トレーラーの右後輪タイヤがパンクしたため路肩に停車し、修理業者を手配中、車外へ出ていたところ後方から走行してきた大型トラックに追突され、自車両とガードレール（または側壁）に挟まれ死亡したものの。	040301	221	17	～ 49
6	10 ～ 12	国道において、被災者が一般車の交通誘導を行っていたところ、トラックの運転手がいねむりをしていたため、被災者の停止合図に気付かず、被災者も危険を感じたため、道路脇に逃げようとしたものの、間に合わずトラックにひかれたもの。被災者は事故発生日から入院していたが、後日容態が急変し、呼吸不全により死亡したものの。	170201	221	17	～ 29
6	0 ～ 2	国道で、信号待ちで停止していた10tトラックに、後ろから来た4トントラック（被災者が運転していたトラック）が追突し、4トントラックを運転していた被災者が死亡したものの。	040301	221	17	1～ 9
5	10 ～ 12	事務所から、社用車で現場へ移動している最中に、道路脇のガードレールに接触し、ハンドルを切るも制御できずに再度ガードレールに接触し、制御不能となり横滑りして対向車線へ飛び出し、信号待ちから前進しようとした対向車の大型トラックに衝突したものの。	130201	221	17	～ 29

5	12 ～ 14	被災者は、10 t ダンプトラックの運転手である。肥料（工場から出るライムケーキ）を積んだ後、農家へ向けて国道を走行中、何らかの原因により車両が横転して路外に逸脱、運転席から投げ出された被災者が車両の下敷きになり死亡したものの。	040301	221	17	10 ～ 29
5	12 ～ 14	被災者は汚泥処理プラント設備工事の作業を終え、トラックに乗車し所属事業場に戻る途中、高速道路出口付近で、2車線の右出口側に渋滞で並んでいたトレーラーに追突した。被災者は追突の衝撃で道路へ投げ出され、病院に搬送されたが、その後死亡が確認された。	030309	221	17	1～ 9
5	16 ～ 18	被災者は、事業場を出発し、配送先に建築資材を運ぶため大型トラック（ウィングボディ）を運転していた。道中、県道を走行していたところ、右車線に対向進出し、ガードロープを突き破って進行右側の約5 m下の河川へ転落した。	040301	221	17	10 ～ 29
4	2 ～ 4	4 t トラックを運転して国道を走行中、道路左側の縁石に乗り上げ、その勢いで対向車線へはみ出し、対向車線を走行していた10 t トラックと正面衝突した。4 t トラックの運転手が死亡し、10 t トラックの運転手は頸椎骨折。	040301	221	17	30 ～ 49
4	12 ～ 14	市道の路側帯に停車していたトラック（4トン）が後退し、開いたトラックのドアと電柱の間に身体が挟まれ、死亡したものの。	030202	221	17	1～ 9
4	6 ～ 8	被災者は、土場に運ぶ資材を積み込むため、当該事業場の資材置場の前（傾斜地）に3 t ダンプトラックを止め、エンジンを切って、車外に出た。その直後、当該ダンプトラックが道路を逸走し始め、それを止めようと被災者が運転席に乗り込もうしたところ、ダンプトラックが壁に激突した衝撃で運転席とドアの間に被災者が挟まれ、死亡した。	030199	221	17	10 ～ 29
	12	カーブが連続する県道を走行していた10トンダンプトラックがセンターラインをはみ出し、対向車側面（対向車もダンプトラック）				10

4	～ 14	に接触、さらに対向車線側ガードレールを突き破り、路肩から約30メートル転落した。	040302	221	17	～ 29
3	14 ～ 16	県道をバイクで走行中、交差点内において、被災者から見て右方向から進入してきた2トントラックと衝突した。	090101	221	17	10 ～ 29
3	18 ～ 20	鉄筋（24 t）を積載したトレーラー（最大積載量26 t）を運転中、橋の手前のカーブ走行中に路面凍結によりスリップし、橋の欄干に衝突した。その後、キャビン部分のみ欄干を超えて橋上より落下、炎上した。	040301	221	17	1～ 9
3	12 ～ 14	被災者は3 tトラックを運転し国道を南進、相手方はトレーラーを運転し北進していた。当該道中において、被災者が運転していた3 tトラックが中央線を越え対向車線にはみ出したため、対向車線を走行していたトレーラーと正面衝突した。	040301	221	17	1～ 9
3	18 ～ 20	夕方、仕事を終え、建設現場から会社事務所に戻るため、10人乗りの乗用車に1次下請1社、2次下請2社の労働者計6名が乗り合わせ現場を出発。ジャンクションの約500m手前で車の調子が悪くなったため、ブレーキランプ及びハザードランプを点灯させ、路肩に停車していたところ、後方から大型トラックに追突された。	030209	221	17	50 ～ 99
2	8 ～ 10	工場の前の坂道にて、被災者がトラックを停車して、車両の後方で荷卸し準備をしていたところ、同車両が後退してきて、後方に停車していた別のトラックとの間に挟まれたもの。なお、ギアはニュートラルに入っておりサイドブレーキはかかっていた。	040301	221	17	30 ～ 49
2	16 ～ 18	家屋の解体工事にあたり、被災者はダンプトラックで瓦礫の運搬を行っており、積込時は現場前の坂道（公道）で車内待機するよう指示されていた。しかし、夕方、ドンと大きな音がしたため、別の作業員が見たところ、ダンプトラックは当初の停車位置より坂道を後部から3メートルほど下り、工事作業中のドラグショベルに当たっ	030209	221	17	10 ～ 29

		て止まり、被災者がその間に挟まれ負傷していた。救急搬送されるも数十分後に死亡が確認された。				
2	12 ～ 14	国道で、被災者が運転するトラック（砕石積込済）が工事現場の手前で止まっていた軽トラックに追突し、さらに前方にあったロードローラーに衝突した。事故現場は県発注の道路舗装工事が行われており、片側相互通行を実施中であった。	030309	221	17	10 ～ 29
2	8 ～ 10	物流拠点から倉庫に向けて、午前8時20分頃、軽貨物自動車を運転し出発、市道を走行中、センターラインをはみ出し対向車と正面衝突し、外傷性ショックにより死亡した。	040301	221	17	10 ～ 29
2	22 ～ 24	積荷の運送のため、大型トラックで国道を走行中、カーブを曲がり切れず反対車線にはみ出し、対向の大型トラックと正面衝突した。	040301	221	17	50 ～ 99
1	2 ～ 4	側乗指導のため被災者が助手席に乗り込み、別の労働者が運転中、運転者が運転を誤り、道路左側にあった標識にぶつけた後、ガードレールにぶつかった。この衝撃でトラックのキャビンが変形し、被災者の足がキャビン内のシートとグローブボックス間ではさまれた。その後、入院中であった被災者は肺塞栓症により死亡したものの。	040301	221	17	10 ～ 29
1	8 ～ 10	事業場から用務先に徒歩で向かう途中で横断歩道を渡ろうとしたところトラックにはねられ死亡したものの。	040301	221	17	1～ 9

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.html>(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_03.html